編集後記

平成30年度のアニュアルレポートが完成しました。

京都医療センターにおける診療の第一の柱は、『救命救急医療』であり、当院の救命救急センターでは、365日、24時間体制で、脳卒中、心筋梗塞などをはじめ、生命の危機に直結する疾患に対応しております。本年、令和二年には、新たに、『ハイブリッド手術室』の建設に取りかかり、これまで以上の診療レベルに到達することを目指しております。

診療の第二の柱は『がん診療』であります。私たちは、地域がん診療連携拠点病院として、がん診療に力をいれており、平成30年4月には、がんゲノム医療連携病院にも指定されています。さらに、本年、令和2年3月より、待望の高精度リニアック治療棟が稼働しますので、『高度型のがん治療センター』としての機能がすべてそろい、より高度ながん診療が可能な体制が整います。

京都医療センターは、また、京都南部地域で最も大きな役割を持った、地域医療支援病院、京都府災害拠点病院として、地域に少しでも貢献できるよう努めてきました。平成30年は、西日本で地震や豪雨など天災がたくさん発生した年でした。6月18日の大阪府北部地震では、当院の災害派遣医療チーム（DMAT）が大阪に駆けつけ、支援活動を行いました。

平成23年度から再スタートしたこのアニュアルレポートですが、年々ページ数が増えています。これは当院の活動内容が毎年増加していることを示しているだけでなく、職員一同が自分たちの活躍をひろく知っていただこうと思っている現れです。これからも病院一丸となっての努力の歩みを職員個々人が共有することで当院のさらなる発展を目指していきます。

広報委員会
瀬田公一　地域医療部長
塚原徹也　副院長